



# 協会ニュース

**第35号**  
平成26年 2月 1日発行

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL. (03) 3476-5721

homepage: <http://rocktech.jp/> E-mail: [rocktech@muse.ocn.ne.jp](mailto:rocktech@muse.ocn.ne.jp)



岩盤削孔技術協会  
会長

見波 潔

## 老朽化・長寿命化

25年程前、私が建設省のある地方建設局(現在の国土交通省地方整備局)の道路予算の配分事務を担当していた頃、現場からは維持管理の予算がもっと必要なのではないかという要望がありました。道路資産が増え、同時に道路予算も増える時代ではあったのですが、新設の事業予算との兼ね合いで維持管理費を大幅に増やすことができず、将来の維持管理が懸念されるのではないかという議論をしていたことを覚えています。

それから四半世紀が過ぎ、昨年は「メンテナンス元年」「老朽化対策」「長寿命化計画」といった構造物の維持管理にかかわる言葉が飛び交いました。世の中の流れを変えるにはこういったスローガンも必要ですし、現実問題としていよいよ真剣に取り組まなければならない時代になりました。

一言で老朽化対策や長寿命化といっても、簡単なことではありません。老朽化する原因は何か、老朽化はどのように進むのか、老朽化対策とは何をする事なのか、材料や構造物の寿命とは何か、長寿命化とは何をする事なのか、構造物ごとに専門家が技術的知見や経験や推理力を動員して対応する必要があります。必ずしも理論的に解明できるとは限らない、まさに技術者の力量が問われる課題です。同時に、将来にわたって付き合い続けなければならない大きな課題であることは言うまでもありません。

ところで、我々が扱っている地中の基礎工の分

野となると、構造物が出来上がってから点検等で見ることができる部分がほとんどありません。構造物を支える重要な部分を担っているにもかかわらず、「維持管理」という概念がない分野とも言えます。つまり、我々はメンテナンスフリーで構造物をしっかり支えることができるよう、施工段階できちんとしたものを作らなければならないのです。

岩盤削孔は各種建設プロジェクトで必ず必要とされる工法の一つであり、地盤・岩盤という自然を相手にするため、永年に渡って蓄積されてきた経験、ノウハウ、技術力が不可欠です。

岩盤削孔技術協会は大口徑岩盤削孔工法の普及および技術の向上を図ることを目的として、高い技術力を有する施工専門業者ならびに機械製作会社を会員として平成元年に設立され、会員各社のご努力と協会の活動が相まって、本工法は今日までに着実に発展して参りました。

協会では、発注者、設計者、施工者からの様々な技術的問い合わせや要請に対応すべく、会員各位のご協力を得て日々工法の普及に努めております。

技術相談の受付や協会ニュースの発行など外部への情報発信や会員相互の情報交換を行いますとともに、(一社)日本建設機械施工協会主催の「橋梁架設・大口徑岩盤削孔の施工技術と積算及び建設機械等損料」講習会に講師を派遣し、大口徑岩盤削孔の施工技術と積算についてご理解いただくよう努めております。

合わせまして、平成26年度は「大口徑岩盤掘削工法・施工機械技術資料」、「リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料」、「会員施工会社施工実績調査表(平成25年4月～平成26年3月)」の発行を計画しております。

技術を大切にする会員の皆様とともに大口徑岩盤削孔技術を育て、発展させて参りたいと考えておりますので、一層のご支援をお願い申し上げます。